

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 18 日現在

機関番号：13101

研究種目：若手研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20680039

研究課題名（和文）『新編会津風土記』を中核とした歴史 GIS の構築とその活用

研究課題名（英文）

Historical GIS of Aizu Region

研究代表者

堀 健彦（HORI TAKEHIKO）

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授

研究者番号：80313493

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：地理学・地理学

キーワード：地誌、地理情報システム

## 1. 研究計画の概要

本研究は、申請者がこれまで行ってきた、歴史地理学の資料論の一環に位置付けられる。本研究では、文化6年（1809）に完成した『新編会津風土記』全120巻に含まれる空間情報に関わるデータを中核として、歴史資料を取り込んだ地理情報システムを構築することを目的とする。

## 2. 研究の進捗状況

2008年度には、本研究が底本とする新潟県立図書館所蔵の『新編会津風土記』、既刊の刊本の底本、それ以外の流布本などの関係についての検討を開始した。

また、歴史 GIS のフレームの構築について、『新編会津風土記』記載内容のデータ化作業の試行を行い、問題点の析出をはかった。

2009年度は、『新編会津風土記』を基礎データとした歴史 GIS の構築に関する検討について大幅な進捗をみた。具体的には、『新編会津風土記』に掲載されているデータのタイプを全て確認した上で、歴史 GIS の構築において重要な部分であるデータベースの構築についての作業を進めて、翌年度に実施する本格的な入力作業にむけた準備を完了させた。

2010年度には、『新編会津風土記』を基礎データとした歴史 GIS の中核を占める『新編会津風土記』記載内容のデータベース化およびデータベースの基本となる村等のポイントデータ化について作業を行った。

これまでに大枠を完成させた『新編会津風土記』データベースフォーマットおよび作業手順をまとめたマニュアルについて、データベース化作業を進めていく中で問題点や改善点を洗い出し、さらに改良を加えた。また、近世地誌などの歴史時代の資料をデータベース化した先行研究などを参照した上で、本研究プロジェクトのデータベース化の過程や項目などを研究報告などの形で残しておくことに一定の意味があることを確認したため、現在、論文を作成中である。

以上、研究の最終年度である 2011 年度半ばに『新編会津風土記』を中核とした歴史 GIS が完成し、分析が完了するという見通しを得るに至った。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

『新編会津風土記』のデータベース化および関連づける地理情報の選定については、ほぼ予定通り、作業が進んでいる。

底本とする『新編会津風土記』の位置づけについては予定よりも時間がかかっている

が、研究期間内に完了する見込みである。

研究の性格上、研究途中での論文という形での成果公表が難しいため、会津で開催されている研究会や講演会、シンポジウムなどで研究を紹介するようつとめている。

#### 4．今後の研究の推進方策

2011年度については、これまでと同様に予定通り作業を進める。2012年1月以降は、完成した歴史GISに基づいた分析を進め、研究会を開催し、報告を行いたい。

#### 5．代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕